

# 宜野座村を知る

本村は、古知屋岳・ガラマン岳・漢那岳が北風を防ぎ、海岸のイノー(ラグーン)が漁場となって、縄文時代から水場を拠り所に人々が生活していました。

琉球王府時代になると、古知屋(現:松田)・宜野座・惣慶・漢那の集落が形成されますが、各集落には現在も祖先が眠る聖域である御嶽が残っています。

明治の頃には、首里・那覇・泊の士族が古知屋や宜野座に寄留し、組踊「本部大主」や「宜野座の京太郎(県無形民俗文化財)」など士族の文化であった芸能を伝え、五穀豊穡を神に祈願する豊年

祭(八月あしび)に取り入れられて現在まで継承されています。

昭和20年(1945年)の沖縄戦時、本村は本島中南部と異なり戦場にはなりませんでしたが、戦争の数年前から食糧増産を目的とした開拓集落が高松・福山・城原につくられ、米軍占領後には民間人の収容地域となったため、ピーク時には約10万3千名の方々が本村で生活していました。

このように、本村には縄文時代から現代の歴史を語る自然・考古・民俗・芸能・沖縄戦など数多くの文化財が残されています。



ガラマン岳

写真提供・原稿協力/宜野座村立博物館

## 宜野座村誕生

1946年4月1日、当時の金武村から古知屋、宜野座、惣慶、漢那の四集落が分離し、宜野座村が誕生しました。同年8月1日、のちの名誉村民・新里善助氏が第2代村長に就任しました。



分村後の  
新興宜野座村歴代村長  
左から森山徳吉初代村長、  
新里善助2代村長、  
新里銀三3代村長と  
屋比久孟松収入役  
(昭和23年頃)

## 戦後復興事業の開始

1948年より、村役所の建築、点灯事業、簡易水道事業などに着手。また、村内には宜野座総合病院、宜野座裁判所、宜野座警察署、宜野座地方刑務所などの公共機関が存続しており、他町村に先駆け、戦後復興事業が行なわれる要因となりました。

## 戦後処理業務の基礎を確立

1950年9月3日に田端景俊氏が第4代村長に就任し、2年2ヶ月の在任期間中に、農業ダム建設を中核とした農業振興計画の立案、宜野座村農業改良委員会の設置、

教育委員会制度の施行、土地所有者権証明の交付、戸籍事務の整備など戦後処理業務の基礎を確立しました。

## 琉球政府の設立

1952年2月、民政府布告13号「琉球政府の設立」が交付され、4月1日に琉球政府が設立されました。この年の11月21日、浦崎康裕氏が5代村長に就任、以来、1964年までの12年間の任期中に本村の二大政策である「農業立村」、「教育立村」が確立されました。この二大方針は不動の政策方針として、歴代村長に引き継がれ、現在に至っています。



上:昭和28年元旦に影した村職員一同。  
下:当時の宜野座村役所



## Get to know Ginoza

In Ginoza, Kochiya mountain, Garaman mountain and Kanna mountain prevent the northern wind, and Inoo (a lagoon) on the coast became a fishing ground, and people lived in a place surrounding the water resources since the Jomon period.

During the Ryukyuan kingdom era, Kochiya (now: Matsuda), Ginoza, Sokei and Kanna settlements were formed, and in each settlement today there is still a sacred area where the ancestors sleep. During the Meiji era, samurai class from Shuri, Naha, and Tomari stayed at Kochiya and Ginoza, and passed down many cultural activities, such as the traditional dance of "Motobu Onushi" and "Ginoza Kyotaro (prefecture folk cultural asset)." It has been introduced to the annual festival (August ashibi), which conveys performing arts and prays for a rich harvest and has been inherited until this day.

At the time of the Okinawa War in 1945, the village was not a battlefield unlike the central south of the Okinawa main island, however prior to the war ending the village was used as a testing ground for increasing food production where many areas allowed high occupancy including Takamatsu, Fukuyama, and Shirohara. This led to the area being occupied by civilians after the occupation of the U.S. military, and about 103,000 people were living in village at its peak time.

In this way, the village has many cultural assets including nature, archeology, folklore, entertainment, and the battle of Okinawa tell the history of the present age dating back to the Jomon period.

## 企業誘致を積極的に推進

1964年12月に興儀實清氏が8代村長に当選、1972年(本土復帰前後)まで2期8年間村政を担当しました。興儀村長は若年労働者の村内での雇用の拡大と基幹作物(さとうきび、パイン)の振興を目的に、タピオカ工場、パイン工場、製紙工場などの企業誘致を積極的に推進しました。しかし、当時の国際的な農産物自由化の影響等で誘致を進めることができませんでした。また、祖国復帰を叫ぶ社会運動が全琉で勢いを増していく時期でもありました。

## 沖縄県の本土復帰

1972年5月15日、琉球政府の施政権がアメリカ合衆国政府から日本政府へ変換され、沖縄県となりました。本土復帰後、県の各市町村の施政は本土化や本土水準を目標に推進されました。12月3日に末石森吉氏が10代村長に就任すると、農林水産省補助による土地改良事業を導入し圃場整備を行ないました。

## 「水と緑と太陽の里」構想

1980年12月30日、仲程實湧氏が12代村長に就任しました。仲程村長は「水と緑と太陽の里」を村づくり構想のキャッチフレーズに、「自然と産業との調和ある村づくり」を村政の主要施策として掲げました。2期8年の就任中、宜野座村緑化振興会の設立、国営漢那ダムなど4つのダムの完成などを実現しました。

## 村のソフト面の開発

元号が昭和から平成に変わった1989年。その前年に14代村長に就任した伊藝宏氏は村保健健康相談センターの開設、村地域福祉センターの完成を手がけました。また、生涯学習の拠点としての村立博物館、漢那小学校50周年に伴う学校移転など、村のソフト面の充実を多数実現しました。

## 観光産業、情報化社会への参入

1999年12月30日に浦崎康克氏が16代村長に就任。2期8年の任期中、「サーパーファーム整備事業」などを導入、情報や観光産業への積極的な参画に取り組み、2000年には、てんぶす宜野座村を宣言しました。以降、全国へそのまち協議会への参加等、県内外へ宜野座村を発信しています。また、2003年には阪神タイガース春季キャンプを誘致。その取り組みは現在も続いています。

## 新たな時代に対応する施策

2004年12月30日、18代村長に東肇氏が就任。これまでの政策を踏まえながら、新しい時代の流れや大きな時代のうねりに対応するべく村政の取り組みやあり方、「健康づくり」をキーワードとした村づくりに取り組みました。

施設面では「宜野座ドーム」が2006年、「宜野座村サーパーファーム」第2サーパーファームが2009年に完成しました。また、「健康宣言の村」、「有機の里 宜野座村」宣言、宜野座村営学習塾「21世紀みらい」の開講なども行いました。

## 村民参加型のむらづくり

2012年(平成24年)第20代村長に當眞淳氏が就任し、「子ども達の瞳が輝き、村民の笑顔があふれる村づくり」を基本理念に村民参加型の村づくりを推進し、各種産業振興や教育・福祉支援体制の強化、交流事業の推進など多岐にわたる新たな取り組みを進めています。

2013年には、マンゴー拠点産地認定のほか、松田地区史跡公園及び体験交流センター、かなパークゴルフ場の完成。2014年には宜野座村特産品加工直売センター(未来ぎのぞ)が東海岸初の道の駅として登録。また、タラソの管理運営を民間委託。2015年には村営学習塾運営の効率化を図るために教科運営を一括民間委託。2016年には、村制施行70周年を記念して村伝統芸能ハワイ公演を皮切りに国内外に本村の魅力を発信する宜野座ウィークなどの多彩なイベントを開催。道の駅「ぎのぞ」が重点「道の駅」に選定される。同年12月に第21代村長に當眞淳氏が再選され、2期目の村政運営を担う。

2017年には、村立共同調理場が完成、村民人口6千人突破、子どもの居場所運営支援事業の実施、体育施設ネーミングライツの導入。

2018年には、村のブランド化を目指した「イチゴの里」宣言、防犯灯・防犯カメラの設置。県立農業大学が本村へ移転決定。リバーパーク整備事業の一環として観光拠点施設が完成し、道の駅「ぎのぞ」のリニューアルオープン。

2019年には宜野座多目的スポーツ施設の完成など地域ニーズに対応した施策を進めています。

# 村の歴史を知る文化財



写真提供：原福協力 / 宜野座村立博物館

## 【村指定文化財(史跡)】 松田の馬場及び松並木

松田小学校には、明治の頃に首里から寄留した「ティーラタンメー」が造り、古知屋(現在の松田)の人々が草競馬を楽しんだという「松田の馬場及び松並木」があります。

同馬場は全長250メートル、幅25メートルで、左右に松を植林して見物場が設けられていました。現在、松並木は美しい景観をつくっています。

## [Village designated cultural property (historic castle)] Matsuda's horse field and pine trees

At Matsuda Elementary School, there is the "Matsuda's horse field and pine trees" where the people of Kochiya (now Matsuda) enjoyed grass racing, built by Teeratan-mey during the Meiji era.

The horse field is 250 meters long by 25 meters wide, with pine trees planted on the left and right to provide a viewing site. The pine trees continue to create a beautiful scenery.

## 前原遺跡

字松田の前原海岸には、約三千八百年前の籠(パーク)に入ったオキナワウラジロガシの実(ドングリ)が発見された「前原遺跡」があります。通常、何百~何千年前の遺跡では植物性の遺物は朽ちてしまうのですが、同遺跡の調査によって縄文時代の人々が木の実を食べる目的で水に浸けてアクを抜いたり、貯蔵したりしていた事がわかってきました。

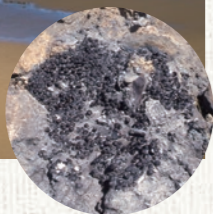
## Maehara ruins

On the Maehara coast of Matsuda, there is the "Maehara ruins", where the Okinawa acorn of the horse mackerel inside a fossilized basket from approximately 3,800 years ago was discovered. Usually, plant-based artifacts are destroyed at ruins hundreds to thousands of years ago, but by surveying the same ruins, records of people in the Jomon period immersed in water with traces of eating nuts were found, as well as new founding hinting to the fact that they drained and stored nuts.

## Okawa Gusiku ruins

In the Furujima area of Ginoza, there is the historical "Ginoza prayer site", also called "Okawa gushiku" because of the legend that Okawa Aji lived there.

The area around Gushiku has been carved in several stages, and traces of stone can also be confirmed, showing that people were conscious of defense. After excavation, Chinese pottery from the 12th to 14th centuries were also found.



## ラッカー 大川ダシク跡 (宜野座ヌ古島遺跡)

字宜野座の古島には、「宜野座ヌル殿内の拝所」があり、大川按司が住んでいたという伝説から「大川ダシク」とも呼ばれています。

同ダシクの周辺は、何段も削平された地形となっており、石積の痕跡も確認できる為、防御を意識した様子がうかがえます。また、発掘調査では12~14世紀の中国産陶磁器などが出土しています。



## 惣慶の石敢當(安部崎の返し)

字惣慶の古い集落境には、「イシガントウ」と呼ばれる石獅子が東西北に配置されています。

惣慶では、恩納岳・久志岳・安部崎の方向から吹く風が災いを運んでくると考えられていたため、厄除けの目的で集落の入口にイシガントウを置いたと伝えられています。

また、旧暦9月5日には牛を潰し、集落の3箇所にあるイシガントウに肉を供えて厄払いをする「シマカンカー」という行事が行われています。

## The Ishigantou of Sokei (Shigandang) (Precaution from Abuzaki)

In a section of the old settlement of Sokei, you can find what is known in Japanese as "Ishigantou", or Shisa in Okinawa. These Ishigantou were strategically placed on the North, South and West sides of the area to protect the entrances to this settlement from what the people of Sokei believed to be evil winds blowing from Mt. Onna, Mt. Kushi and Abuzaki.

On the 5th day of the 9th month of the lunar calendar, they have a ritual where they sacrifice cows at the three Ishigantou sites to drive away evil.

## 惣慶のウガン(お宮)

字惣慶には「ウガン」と呼ばれる御嶽があり、1713年に琉球王府が編纂した「琉球国由来記」には、御嶽名「マチョウガマノ嶽」、神名「アラハタヨリフサノ御イベ」と記載されています。

1942年(昭和17年)、同御嶽に神社風の神殿が造られ、イザナミノミコト・ハヤタマオミコト・コトサカオミコトの神々を「波の上宮」より分神して祀って以後、惣慶のウガンは「お宮」と呼ばれるようになりました。

また、惣慶のウガンには数本のオキナワウラジロガシが生育していますが、1955年(昭和30年)頃まで林業が盛んであった本村地域において、現在も集落内にオキナワウラジロガシが残っているのは、当地が惣慶の人々にとって大切な聖地であった事から、木々の伐採が控えられた為と考えられています。



## Sokei's prayer site

In the old village border of Sokei, stone shi-shi dogs called "Ishiganto" are placed in the east and west. As it was thought that the wind blowing from the direction of Onna mountain, Kushi mountain and Abe cape would carry natural disasters in Sokei, it is reported that they put Ishiganto at the entrance of the village for the purpose of abduction.

In addition, on September 5 of the lunar calendar, there is an event called "Simakanka", which slaughters cattle and offers meat to Ishiganto in three places of the village to eliminate evil spirits.

## 漢那ウェヌアタイ

漢那集落の東にある森は、ウェヌアタイ(通称:ヨリアゲの森公園)と呼ばれ、石灰岩地帯と非石灰岩地帯の異なる環境で生育する植物が分布する貴重な森となっています。また、県内で最大規模といわれるアマミアラカシ群落を有し、11~12月頃になるとアマミアラカシの実(ドングリ)が拾えます。

なお、発掘調査ではグスク時代に鍛冶場が営まれていた事が確認されており、森の洞穴には琉球王府の御用木として位置づけられていたチャーギ(和名:イヌマキ)で造られた木製家型墓も残っていました。

## Kanna Weenuatai

The forest to the east of Kanna village is called Weenuatai (commonly known as Yoriage Forest Park), and it is a valuable forest in which plants growing in different environments of limestone and non-limestone can be found. In addition, we have the largest growing Amami-arakashi trees found in the prefecture, and Amami-arakashi nuts (acorns) could be picked through November to December.

In addition, it was confirmed in the excavation survey that a farrier was run during the Gusuku era, and a wooden house-shaped tomb made of Chaagi wood (Japanese name: Inumaki), which was regarded as one of Ryukyu kingdom's temple in the cave of the forest.

